

## 命をいただく ～ 動物が好きだからこそ、ハンターになりました ～

もとかわ あきよ  
本川 哲代(むかわ町)

丁寧に処理されたエゾシカ



エゾシカの角はペットフードとしても販売

## 【活動概要】

- もとかわ あきよ  
●「むかわのジビエ」代表 本川 哲代  
食肉処理加工施設の運営  
食肉・加工食品・ペットフードの製造販売  
むかわ町有害鳥獣駆除委嘱ハンター  
講演活動 など

## ◇【取組の経緯と概要】

- ◆平成19年 スーパーマーケットの総菜コーナーに勤務していたが、大量の食品が廃棄される現状に対し、倫理的罪悪感やジレンマを感じ退職。
- ◆平成23年 ハンターの担い手不足やエゾシカによる農業被害が多いことを知り、動物が好きだからこそ命と向き合いたいと思い、狩猟免許を取得。
- ◆平成24年 むかわ町にエゾシカの解体が上手いハンターがいると聞き、同町に移住。指導を受けるとともに有害鳥獣駆除委嘱ハンターとして活動。
- ◆平成27年 適切に処理をすればエゾシカの肉は美味しいということを伝えるため、エゾシカの解体・食肉処理施設「むかわのジビエ」を開設。

## 【取組内容】

- ハンターとして捕獲したエゾシカの解体処理を行い、ペットフードや食肉、加工品を製造。町内の特産物直売店やインターネットで販売している。
- 飲食店や学校などと連携し、エゾシカ肉の特徴や調理方法を紹介し、コラボ商品の開発にも力を入れている。これらの取組をとおして、食育の推進と普及に大きく貢献している。
- 畜産や酪農にとどまらず、野生動物の駆除においても動物福祉の理念を掲げるとともに、ジビエの魅力をSNSで発信し、町内のお祭りや町外イベントにも積極的に参加している。
- アニマルウェルフェアやエゾシカの交通事故問題に関する講演を行い、理解促進を図っている。
- 罠による捕獲や、交通事故により死んだエゾシカの処理に、昼夜を問わず協力している。



販売している商品



食品基準に準拠したペットフード

猫スタッフも活躍しています

ペットフードのモニターとして、味の良いチェックは欠かせません。



## 【取組の成果】

- むかわ町におけるエゾシカの利活用頭数が平成29年度の83頭から、令和5年度には291頭と、6年間で3.5倍になった。
- エゾシカの食肉として、品質が高く評価され、東京、大阪をはじめ本州9件、北海道内1件の有名レストランと取引。
- むかわ町のふるさと納税返礼品として、「鹿肉スライスすき焼き用」「鹿肉フランク」、ペットフードでは「鹿肉ジャーキー」「レトルトペットフード」が採用された。
- 一連の取組が評価され、農林水産省が主催する令和6年度鳥獣対策優良活動表彰「農村振興局長賞(捕獲鳥獣利活用部門(個人))」を受賞。

## 【今後の展望】

- 東胆振では、白老町と安平町に新たにジビエ処理加工施設ができたので、ジビエの利用拡大に向けたネットワークを広げたい。
- 北海道の鳥獣被害対策として、一市町村に一カ所以上の処理施設の設置を推進。
- ジビエ産業全体の課題解決に向け、関係機関が一堂に会する会議を開催したい。また、ジビエ連携フォーラムも開催したい。
- 自らの理念を発展させることができる後継者を育成し、この事業を継承させたい。